



2018年秋号  
 日本キリスト教団  
 横浜岡村教会  
 〒235-0021  
 横浜市磯子区  
 岡村 4-25-39  
 TEL.045(751)3917  
 牧師  
 杉本 泉

「人の子が来る」

“…天体は揺り動かされる。そのとき、人の子の徴が天に現れる。そして、そのとき、地上のすべての民族は悲しみ、人の子が大いなる力と栄光を帯びて天の雲に乗って来るのを見る。”

マタイによる福音書二四：29～30

牧師 杉本 泉

地球温暖化や大陸プレート移動の影響で、近年、日本列島各地に大規模災害が発生している。この国の二一世紀の始まりは驚きと悲しみの連鎖に包まれている。「がんばろう日本」と頑張っても災害は後を絶たず、この状況は日本に住む人々の試金石にすら感じられてしまう。

こうした状況の中でキリスト者として、私たちはいかに生きればよいのだろうか。キリスト者として神に求められる備えとは、神を愛し、隣人を愛して生きることである。これをもって「自分自身が生きること」に精一杯という状況下でも、自分にいったい何ができるといえるのだろうか。

か。」という、いつの時代においてもキリスト者に問われている命題と向き合うのである。

だが、「多くの人がつまずき、互いに裏切り、憎み合うようになる」とか「多くの人の愛が冷える」と聖書は記している。どうしてそうしたことが生じてしまうのか。それは、生けるまことの神、または全知全能の神、創造主で世界を裁かれる神と紹介されている、聖書の神を人々が仰ごうとしないからである。

では、何故、仰ごうとしないのか、それは、彼らが人を見ているからである。人は何かにつけ、気になる（気に障る）隣人と自分を比較して生きている。そうしている間は、その人は出口を見いだすことができない。暗闇に閉じ込められ、真理に至ることができずに、疑問を呈し、不平を鳴らすことしかできないのである。では、どうしたら、そうした袋小路から抜け出し、「人の子」となられ、人の罪の赦しのために受難を受けられた、裁き主であるイエスの再来を待ち続けるこ

とができるのだろうか。  
 答えは既に述べているが、もう一度言おう。それは、人（自分自身も含む）を見ないで、神を仰ぐことに尽きるのである。

最後の審判において重要なのは、その人が生前、何をやりとげたのか、何を残したか、ということではない。いや、そうだと、心得違いをしている人が実に多いのは嘆かわしい限りだ。人の見方と神の見方とは異なるのだ。もし、人の実績や功績が最後の審判でも評価されるのだとしたら、最後にブドウ園に雇われた人々、レプトン銅貨二枚しか献げられなかったやもめ、流血の病を癒していたいた婦人らは、どう評価されるだろう。イエスは彼らを高く評価されているのだ。私たちは、人を見、或いは人と比べて時を過ごすのを止めてしまおうと思う。そうしている間は、神に喜ばれることはないからである。人を見ている間は、人は自分自身を裁き主の座に押し上げてしまっている。人を裁く方はキリストであるイエスであって、私たち人間ではないのである。

それよりも、私たちは神との深い交流に生きていたい。神の思いを正しく受け止め、それをもって生き、主イエスの来たりたもう日を待ち望んでいたい。

## 第37回岡村アシユラムの恵み

関口 勢津子

杉本泉牧師を助言者とし、「イエス・キリストを思う」(テモテロ2:1~13)を主題に開かれました。神様は真実の方であり愛と恵みを常に与え続けて下さり、最後の審判では喜びと驚きのサプライズが用意されているという、希望に満ちたお話しでした。私達にその愛と恵みを受け損ねない歩みをと喚起させて頂きました。ファミリアアワーは、泉牧師の手作りの“御言葉カルタ”を夢中になって楽しみ、和生先生曰く、御言葉のシャワーを浴びました。静聴の時では、各々示された聖書の箇所を思いと共に発表しました。私自身古い自分がキリストの十字架により罪の支配から自由になったにもかかわらず、罪の中に生きて葛藤する日々があります。でも神様は、ローマ6:14の御言葉「もはや罪はあなたがたを支配することはないからです。あなたがたは律法の下ではなく、恵みの下にいます。」「が与えられて、深い神様の愛を受けとる事ができました。そして、充滿の時は与えられた恵みを各々発表し、「実に、人は心で信じて義とされ、口で言い表して救われるのです」(ローマ10:10)を実感することが出来ました。感謝！

## 岡村アシユラムに参加して

菅野 美穂

七月十四、十五日に岡村アシユラムがあり、私はオリエンテーションからファミリアアワーに出席しました。杉本泉、和生牧師を迎え、初めてのアシユラムで、皆少し緊張している様子もありましたが、それぞれがメッセージを通して自分と向き合い、本当に自分に必要なニードを思い、会衆の前で発言する事により、強く確信することが出来ました。祈りの細胞では、お互いのニードを知ること、兄弟姉妹として今まで以上に強い絆で祈りの時を持つことが出来ました。ファミリアアワーでは、泉牧師のお手製の御言葉カルタを使用し、一対一の対戦方式で、カルタの読み手、取る人、見守る人と、御言葉の一つ一つに一喜一憂しながら、それぞれ今まで自分に神様から与えられた御言葉に感謝し、その時の思いを顧みることが出来ました。アシユラムに、短い時間ですが出席でき、多くの恵みと喜びを頂いた事に感謝します。



## 第37回横浜岡村アシユラムの恵み

今給黎 美代子

岡村アシユラムが「イエス・キリストを思う」を主題として、助言者杉本泉牧師による開会礼拝で始まりました。開心の時は、各自のニードが発表され、祈りの細胞では、ニードに対して互いの執り成しを、神様の御心に叶う導きを求めて祈り合いました。夕食会後のファミリアアワーは、聖句によるカルタ会が開かれ、御言葉のシャワーの中で、真剣にそして楽しい交わりの時を持ちました。静聴の時は、ローマ書6章を熟読し、与えられた御言葉から受けた恵みを、分かち合いました。「なぜなら、罪は、もはや、あなた方を支配することはないからです。あなたがたは律法の下ではなく、恵みの下にいます。」「(ローマ6:14)功なき罪人の私が、許されて神様のご愛を知り、無限の恵みを受けています。私は欠けの多い者です。「主・イエス・キリスト」を心の中心に置いて、深く御言葉に聴き、御聖霊の導きを祈り求めて歩みたいと思います。充滿の時には、全員が輪になって、アシユラムを通して受けた恵みを分かち合い、喜びと感謝の讃美をお捧げしました。「主を喜び祝うことこそ、あなたたちの力の源である。」

(ネヘミヤ8:5)

### 創立69年を迎えて

早園 貞子

8月12日(日)に、創立69年の記念礼拝を行いました。今年は根岸橋教会(町内会館を借りて)から、岡村3丁目、4丁目に移転し、横浜岡村教会となった行程の写真を、スクリーンに映して振り返ってみました。

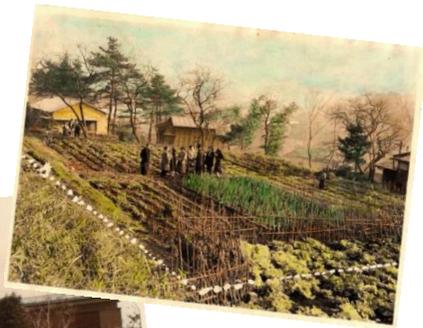
岡村3丁目の教会で、信仰生活を送った人は少なくなりましたが、当時の教会学校の生徒が成人して、教会で奉仕して下さっていることは感謝です。

来年の70周年に向けて、更に加えられる



た兄弟姉妹と共に、神様の御心になつた教会として成長するよう、祈り求めて行きたいと願います。

感謝



### 心の友全国大会

杉本 和生

「第65回こころの友伝道全国大会」が8月27日〜29日伊豆長岡温泉の八の坊(クリスチャンファミリー経営の旅館)で行なわれました。講師は、安藤先生夫妻が現在出席しておられる、茨城の土浦めぐみ教会牧師が講演されました。今年度は、今給黎美代子姉と私とが、出席させて頂きました。安藤脩牧師の開会礼拝に始まり、続けて、こころの友伝道の三つの基本と五つの実際を学びました。素晴らしいご馳走を頂いた後、特別講演で清野勝男子牧師が、「働き人を生み出す教会」と題して教会がどうあるべきかを語られました。夜は、天然温泉の露天風呂に入りました。次の日、早朝の祈り会で恵みを受け、分団では、私がカウンセリングを担当しました。傾聴のロールプレイを通し、多くの学びを得ました。栄光と喜びの集会で再献身をし、讚美と証の時には、信徒の方の証を聞くことが出来ました。また、安藤善枝先生の絵葉書やろばの店のアクセサリー等も売れて感謝でした。3日間多くの恵みを頂き、本当に祝された時間でした。もっと多くの方に出席していただきたかったです。詳細は、こころの友伝道誌に掲載されますので、ご期待下さい。感謝します。

## JCC夏季学校

8月4日(土)・5日(日)

教会で一泊二日の夏季学校を行いました。テーマ「み言葉を行う人になろう」と題して、杉本泉牧師の礼拝、和生牧師のパペット人形を通して、「字のない絵本」の話をお聞きしました。その後、各学年に分かれてその話を深める分級活動をしました。低学年は折り紙で「字のない絵本」を作



り、中級生は、罪について学び、十字架の意味を聞いたのち、「イエス様を信じます」と共に祈りました。上級生は、自分の中にある“罪”とイエス様を信じることの意味について考え、私たちの罪を負って、イエス様が十字架にかかったことを信じていることが、本当の信仰だと思えました。

その後、昼食は、菅野晴久兄がとても美味しい焼きそばを作ってくれました。お手伝い下さった秋保姉、関原姉妹三人に感謝します。

午後から、ゲームと自己紹介、石川新兄の指導の下、「米ぬか石鹸づくり」をしました。その後、みんなでカレーライスの夕食と日曜日の誕生会用のババロア作りをしました。果物やおやつ、ジュースの提供により、とてもリッチな夕食となりました。その後、銭湯へ行き、戻ってから花火をしました。翌朝、ラジオ体操の後の朝食のメニューは、ふわふわのパンケーキにコーンスープとサラダと桃のジェラートでした。とても美味しかったです。とても充実した夏季学校でした。



カレー作りに、ババロア作り、ゲームも楽しかった。



### 心と身体老化の反省

佐野 勇松

忍び寄る秋風と共に、今年も敬老会の季節がやって来た。町内会、自治会から敬老会への招待が来る。テレビのチャンネルにポーとして暮らしてんじゃないよ、と言われるような私でも、嬉しいものである。教会からの招きであれば、もっと嬉しい。

横浜岡村教会に仲間入りさせて頂いて、今年で十年になるが、残念だが今は遠方会員で、直接教会の皆様にお目にかかれないう状態ですが、毎年教会の敬老会に参加できていた時の事を思い浮かべ、感謝しています。現住所から教会は遠く離れていますので、信仰の迷子にならないよう、当地でも、礼拝できる教会を定めよう、なるべく多く出席出来るようにと、心身調整を心がけてゆきたいと思っている。

今の私の生活はどうなのか。尺八の練習の時「主は汝が名を呼びたまえり、主は汝が名を呼びませり。」毎日の暮らしの中で、何処まで信仰が生かされているのか、主イエスが私の名を知っているだけではなく、私を名指しで呼び、私でなければと、御声に何処まで答えられたかと、身の縮む思いがする。主の呼ぶ声に応えるため、祈る生活を強めよう。

### 敬老の日を迎えて

三宮 陽子

私は中学、高校とミッションスクールに入学したのが、教会との出会いの始まりでした。初めていった教会は清水ヶ丘教会で、倉持牧師の分かりやすい説教と、美声に、楽しい教会生活を送りました。卒業後は教会を離れておりましたが、結婚し岡村に住むようになったある日、ベランダにいと、教会の鐘の音が聞こえてきました。それが岡村教会の鐘で、それをきっかけに教会へ通うようになり、母校の先生であった鈴木姉と出会い、楽しい交わりをさせて頂きました。数年後に野沢牧師より洗礼を勧められましたが、決心がつかず迷っていました。でもイエス様がそのまま良いと言ってくれて下さっているのだからと思い、決心し受洗しました。教会が4丁目に移ってから間もなく、主人が重い病に罹り、二か月足らずで天国に旅たつてしまいました。パニックになつてしまった私を、教会の兄弟姉妹が助けて下さり、感謝してもしきれません。

そして主人が病床洗礼を受けられた事も感謝です。その後私の信仰は何の進歩もなく自問自答していますと、ある日の明け方、私の耳に「テサロニケ、テサロニケ」と聞こえ、急いで聖書を開くと、そ

### 敬老お祝い会



こには「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんな事にも感謝しなさい」という箇所に棒線がひいてありました。こんな者の所にイエス様は来て下さったのでしょうか。不思議です。このような日々の中、あつという間に敬老の日(75才)を迎えることになりました。色々な所を通されましたが、「神様のなさることはすべて時になつて美しい」です。これから先は年齢的にも色々なことがあると思いますが、全てをイエス様にお委ねし、歩んでいきたいと思えます。

## 私と讃美歌

小田 正子

新聖歌、聖歌、賛美歌と讃美は沢山ありますが、クリスチャンではなくても、誰もが聞いたことのある曲があるのではないでしょうか。例えばクリスマスソングや結婚式場のチャペルでは「慈しみ深き」等。私が初めて新聖歌を手にしたのは、受洗記念品として、安藤牧師に頂いた時でした。教会に通い始めて日も浅く、知っている曲も僅かでしたが、ベートーベン第九 二二番「御神の愛おぼ」やアメージンググレイス 二三番「驚くばかりの」を歌っているうちに、だんだんと「この曲知ってる」と親しみを持つようになって行きました。実は、私は音痴で劣等感があり、人前で歌うのが苦手です。そのため小さな声でした。しかし、ある人に「神様を讃美する事が目的なので、音痴など気にする事はない」と言われ、それ以来声を出して歌うことが出来るようになりました。

一つ付け加えさせて頂くとすれば、私の出身校の校歌は、七六番「諸人こぞりて」の曲でした。この曲を聞きたびに、数十年前の青春時代が思い出されます。

坂本 浩

二〇一〇年五月十日夕刻、母より入院療養中の父が危篤状態なのですぐに来て、と知らせがあり、病院へ駆けつけました。危険な状態が続くとのことで、その日は私が残ることになりました。家族が帰った数時間後、医師からあまり長くはないでしょうと告げられました。母や妻に連絡を入れ、そして延命を断り、間に合えばと祈りました。しかし状態は悪化し、その時が来ました。看護師さんから「何かお話をしてあげてください。耳は最後まで聞こえていますよ」と言われ、父の一時のお別れに、讃美を歌ってあげたいと心に湧いてきたのです。そこで頭に浮かんだのが、テノール歌手ペー・チェ Chol さんが、喉頭がんで声を失い、懸命なりハビリにより、奇跡的な復活を遂げるまでを追ったドキュメンタリー番組でした。リハビリ途上のかすれた声で、「輝く日を仰ぐとき」を必死に歌っている姿を思い出したので、一番しか覚えていなかったの二回繰返し「アーメン」で終え、父は天の国に凱旋しました。この曲は、私にとって生涯忘れられない讃美となりました。

杉本 泉

「職業に貴賤なし」と言われるが、大変内向的であった私にとって、珍問屋、サーカス等多くの聴衆の目にとまる職業は近付きがたい引け目を感じるものであった。しかし、私の父は伝道に熱心な牧師であつて・。彼は、トラクト（福音の証やキリストの教えを記したチラシ）の大量配布は勿論、街宣車による呼びかけを始める以前は、大太鼓、小太鼓、タンバリンをもって街頭を練り歩きながら賛美をし、路上に留まつての賛美し、祈つての証詞、チラシ配布をし続けるといった方策を採っていた。小学生であつた私も提灯を持ち、トラクトを配布しながら、続いたものだった。人々の耳目に晒される恥かしさや自己満足のような達成感を抱いたことを今も思い出す。

「ただ信ぜよ」「人生の海の嵐に」「歌いつつ歩まん」「いかに汚れたる」「あなたのもてる悩みは」……といった数多くの賛美が疲労感を覚えると、今も口の端に自然と上つて来る。賛美歌や祈りがいつも私の近くにある、と感じている。

## 「牧師の岡村散歩」 2

牧師 杉本 泉

横浜岡村教会はドイツ人エルンスト・フリードリッヒ・ラング宣教師、梅澤幸太郎牧師のもと、根岸橋教会より岡村へ移り、一九五五年二月一七日にネギ畑に着工されたと、伝え聞いている（現在、その地は住宅街になっている）。

今は低地へ移り、広い敷地や立派な教会堂も与えられているが、「ネギ畑」が教会堂の出発点であったのだ、と聞くたびに、私は教会の原点について考えさせられている。この教会はこれまで、どう歩んできたのだろう。そして、これからどう歩んでいくのだろうか。

教会とは牧師の所有物ではない。誰か一部の人の所有物でもない。法人の登記簿にあるように、キリストであるイエスの福音を教え、宣べ伝えていくための境内地であり、境内建物である。それゆえ、牧師も教会員も一時、一時代を担うに過ぎず、次の時代の人々に、この使命受け渡していく存在なのである。

着任して数ヶ月、教会員のある人々から「新来会者が来ない」とか「教勢が振るわない」という声を聞く。教会の宣教は誰が果たすべきもののだろうか、

と思わされてしまう。

そんな思いからか、横浜菊名教会の愛澤豊重牧師に、「横浜菊名教会や清水ヶ丘教会に比べて横浜岡村教会が小さいのはどうしてでしょう。」とお尋ねしてしまった。すると、愛澤牧師は「立地でしようね。」と、即答された。バス停は近くにあっても駅が遠いことになると、私には理解させられた。「横浜三教会二五年史」の一九六五年〜一九七四年の頃にも「集会の宣伝ビラ8000枚を岡村町を中心に19地区にわたり教会員全員で協力配布した。教会は伝道に励んだが、交通の便等もあって、会員数は伸び悩んだ。しかし、教会学校生徒数は、年毎に増し加えられ、分級に支障を来すに至り、新築増築の必要に迫られた。」と記されていた。

そうか。これは、立地の上で、横浜岡村教会に科せられたハンディなのか、とも思わされた。ハンディとはハンデキャップの略で、その意味は「スポーツやゲーム等において競技者間の実力差が大きい場合に、その差を調整するために事前に設けられる設定のこと」と記されていた。…と、なると、もしかして、横浜岡村教会の方が横浜菊名教会や清水ヶ丘教会よりも、宣教力は上？だということ？

等と身勝手に、ほくそ笑んでしまった。同時に、伝統的に横浜岡村教会には、教会学校、児童伝道のタラント（才能）が備わっているのではないかと、とも思わされた。私たちが着任当初、大勢の子どもたちがJ.C（教会学校）に集まった。しかし、色々あって、J.C（教会学校）に集まった子どもたちの多くが離れてしまった。そこは、謙虚に顧みる必要があるだろう。

今日も近所の空き地や駐車場で遊び場を求めて子どもたちの声が響く。ただ、その子らが、遊び場や遊び相手を求めているだけなのか、それがその子とその家族の救いへと導かれるための下地なのか、慎重に見極めていく必要があるだろう。

現在、岡村の地にネギ畑は見当たらない。また、子ども遊び場も限られている。先代の先輩方には礼拝堂がなくても、宣教への熱意は旺盛であった。立派な礼拝堂が与えられた現在においても、宣教への熱意を失わないでいたい。主はネギ畑から横浜岡村教会を起こされたのだから。（参照ルカ三章八節）



10~1月 行事予定

- 10月**  
 7日 世界聖餐日  
 13日 秋の特別伝道集会(井上眞一牧師)  
 14日 秋の特別伝道集会・講演会  
 17日 三教会統一祈祷課題祈祷会  
 21日 茅ヶ崎恵泉教会(杉本和生牧師)
- 11月**  
 4日 召天者記念礼拝・愛餐会  
 墓前礼拝(上大岡・教会墓地)  
 10日 ミニバザー  
 11日 子ども祝福式(JC・一般合同礼拝)  
 13日 三教会交流委員会(清水ヶ丘)  
 25日 収穫感謝日(教会全体清掃)
- 12月**  
 2日 待降節第1主日礼拝  
 2日 クリスマスツリー点灯式  
 9日 アドベント第2主日礼拝  
 16日 アドベント第3主日礼拝  
 19日 三教会統一祈祷課題祈祷会  
 23日 クリスマス礼拝・祝会  
 24日 クリスマスイヴ・燭火礼拝  
 27日 横浜ろばの店クリスマス
- 1月**  
 1日 第1主日(元旦)礼拝  
 6日 定例役員会  
 (毎月第1主日 聖餐式、役員会)  
 (毎月第4主日 各会の定例会)



JCの窓  
(ジュニアチャーチ)

ラング先生の軌跡を知った  
三教会交流会  
石川 新

8月26日(日)に毎年恒例の三教会交流会に行ってきた。今年は「三教会を建てたラング宣教師のことを知ろう!」というテーマで、横浜菊名教会で行われました。はじめに、菊名教会のバンドによる演奏で、賛美しました。その後は、ラング宣教師の軌跡をたどった、スライドを観ました。今回は、中学生・高校生が対象という言うこともあり、いつもの三教会交流会と少し違う雰囲気でした。岡村教会のJCからは、小学生の子たちが参加しましたが、みんな真剣に観ていました。私自身、ラング先生のお話は、岡村教会

でも聞いたことはありましたが、今回、詳しく学ぶ機会を与えられました。一番印象に残った話は、ラング先生が日本に来る決意を固める場面でした。ラング先生は、キリスト教徒がたったの0.5%しかない当時の日本に行くことに、大きく悩んだそうです。そして熟考の末、日本に行く決心をしました。その時、結婚を考えて交際していたドロテアさんに一緒に来てほしいとプロポーズをし、ドロテアさんとても悩んだ末に「私は、自分の十字架を背負う覚悟ができました。」と一文だけ書いた手紙を返したそうです。この日本への誘いを、神様からのお告げだと確信したラング先生の信仰の大きさに、とても驚かされました。そして、ラング先生の蒔いた種が大きく育ち、今日の三教会があることを改めて考えさせられました。

集案案内

◎ 秋の特別集案

恒久的価値の発見

講師・井上眞一師(テル清水教会牧師)

10月13日(土) 午後2時~3時半

あなたはディスカウントされない!

10月14日(日) 午前10時半~12時

あなたのほかにあなたはいない!

午後1時半~3時

伝道セミナー

「実践的伝道論」

~ホッとする教会を目指して~

お誘い合わせておいで下さい。

◎ 召天者記念礼拝

11月4日(日)午前10時半~

礼拝後愛餐会

その後、墓地へ参ります。

◎ ミニミニバザー 11月10(土)

編集後記

岡村の泉を読むと教会の兄弟姉妹の、熱い信仰と愛を感じます。

特に今回初めて岡村の泉の編集にたずさわわり、改めて皆様の信仰と神様の大きな愛を感じました。これからも、1人でも多く神様に導かれることをお祈りしています。  
(Y・I)

